

桓武天皇陵

桓武天皇(737-806)は、伝統的な継承の順位によると、日本で50代目の天皇であり、帝国史上最も影響力のある重要な人物の一人と見なされるようになった。彼の統治は781年から806年まで続き、その間彼は、794年に大規模で複合的な平城京(現在の奈良)から平安京(現在の京都)へと遷都を行った。平安京は文字通り「平和で静かな都」を意味する。彼の功績は、芸術、精神、政治が発展した黄金時代である平安時代(794~1185)の基礎を築いたことにある。

桓武天皇は、船で行き来がしやすい京都から南西の地域である長岡京に新しい都を建設したいと当初考えていた。10年後、長岡京の造営が突然中止された。これには、淡路島へ追放される途中で命を落とした桓武天皇の亡き弟、早良皇子(750-785)の怨霊に悩まされていたとする説がある。京都は、桓武の死後1,000年以上に渡り、国の都であり、天皇の権力の中枢であり続けた。

桓武天皇の母は、古代韓国の王国であった百済の王室の一員であったと考えられている。2001年、日本の125代目の天皇である明仁天皇は、「私は、桓武天皇の母が百済の武寧王の家系であったと日本書紀に記されているという事実を考えると、韓国にある種の親近感を感じている。」と述べ、現代の日本の君主が初めて皇族の系譜に韓国の祖先の可能性を認めた。